



朽土蔵



特別  
子12  
3643  
16(25)





松慈音

山より山の奥迄もく道ある時

剛

代ありきり

抑是ハ漢の皇帝

ろ片下也。扱も汎福南陽乃鄴縣

け山より薬の水流き出さ水上とこ

て美事とろ宜旨を立寄り唯今

山路も終る仍心あり山より





もたふとて、むくむくあひくや  
草美ゆきなしくして、もろくに  
つ行ハ、福もあく、幸ぬる山あきり  
きりく、是のとも、鄴縣の山より  
きく、山峯谷川、水あて、  
山、小、深く、あ上と、尋とも、と、  
山、遠、暹と、して、霜、侵、を、紅、樹、水

栄也とて、露、潤、の、黄、菊、あ、白  
思、お、く、も、あ、思、深、か、あ、  
店、り、の、内、さ、ん、ま、い、と、う、  
童子、あ、る、そ、も、清、牙、の、  
我、の、周、の、代、は、慈、堂、と、  
あ、は、牙、の、行、あ、た、め、  
入、給、ふ、う、是、ハ、漢、の、  
皇帝、の、臣



下なるる薬の水乃水上をみるよき  
の宜旨と蒙り来りたりまづ  
彼周代より百年忠告あるよき  
を妙なる童子の姿こそも成  
事少人我吉あやましく御  
杖を辨しよりの安ようとす御  
とも我君親あさうぬ御恵の杖

よ妹文とある一海と流る御流れ  
ハ我此あさもつと菊乃葉又彼妹  
文或寫流よりむまはれらるの  
水やあつと壽命との御のそあ  
るに神通よひてきよとるり  
きよきよなるまづと是あは  
御杖祥とあはるよとる







汲入勅使よ是をりくもつて可ハ鄴  
縣乃山路の菊れ氷く免やむはるや  
のむらひほきかまめやむもへや乃  
せとそあきぬよりひとのあふりく  
たきよ

真久良の童

シテ上カ  
有雅の妙文の目  
則此文在久の紫に  
くく悉く死わすけはぢあや帯を  
志力志きもも白い例ともなるや  
谷かげの水を所々鄴縣の山に志を  
ぎり菊水の流泉をえ来酒あれ酌て  
当効免さくひて六施し我力も君なり



香なりや月を育れ其牙も酔ふ引きて  
よ海くよろくやきよよひ家と松  
をやり上つきをたなり実も有雜記  
君去る重徳や名根志菊を辨折好ちく  
敷妙の袖松花を惹小好きりき電  
元来茶は酒を連飲く酔ひを犯さぬを  
其牙も髪ぬ七百歳をきをちぬる色

此海松はゆへあまらぬ色久し紀千秋  
此帝萬歳の我君祈る慈童が七百  
歳我君小松け置祈る御殿乃山路  
志菊水波や徳や香とも  
はれきや菊うけわけて山路乃仙  
家小其候慈童入りき利







